

タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育(夜間主)**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木6
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140562020050	科目番号	05620200
授業科目名	●健康・スポーツ科学		
編集担当教員	中垣内 真樹		
授業担当教員名(科目責任者)	中垣内 真樹		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	中垣内 真樹,西澤 昭,小原 達朗,山内 正毅,高橋 浩二,大石 和代,尾崎 幸生,田井村 明博,林田 雅希,山崎 浩則,田山 淳,古林 正和,河合 史菜		
科目分類	健・スポ科学科目、A健康コンディショニ、自由選択科目、健・スポ科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経] 新館101講義室		
対象学生(クラス等)	経済学部夜間主コース		
担当教員Eメールアドレス	gaichi@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	医学部保健学科体育館2F 中垣内研究室		
担当教員TEL	095-819-7966		
担当教員オフィスアワー	平日16時以降		
授業の概要及び位置づけ	健康や身体運動に関する身体的、生理的特性、またはその社会的側面などについて理解を深め、実生活で役立つ知識の獲得をねらいとする。		
授業到達目標	生活習慣に関連する身体的・精神的疾病の基礎を説明できるようにする。生活習慣と健康、身体運動と健康の関連性を説明できるようにする。個々の生活習慣を振り返り、生活習慣を少しでも改善できるようにする。		
授業方法(学習指導法)	授業で配布する資料を用いて健康や身体運動に関する基礎知識を講義形式で説明する。適時、身近なデータを用いた計算、分析、各自のライフスタイルなどの振り返りなどの演習もおこない実生活に役立つ知識も提供する。		
授業内容	以下のテーマに従って健康や身体運動に関する身体的、生理的徳用またはその社会的側面などについて理解を深める。		
	回	内容	
	1	10月2日：小原達朗；身体とコミュニケーション	
	2	10月9日：中垣内真樹；運動と健康	
	3	10月16日：山内正毅；運動学習の心理学	
	4	10月23日：西澤 昭；リラクセーションの方法	
	5	10月30日：田井村明博；運動とI <sup>1</sup> 補 <sup>1</sup> 代謝	
	6	11月6日：高橋浩二；身体運動と健康についての身体論	
	7	11月13日：河合史菜；ダンスをたのしむ	
	8	11月27日：山崎浩則；青年期に健康を考える	
9	12月4日：山崎浩則；生活習慣病(1)		

	10	12月11日：古林正和；生活習慣病（2）
	11	12月18日：林田雅希；心の健康（1）
	12	12月25日：田山淳；心の健康（2）
	13	1月8日：尾崎幸生；歯と歯ぐきの健康
	14	1月15日：大石和代；青年期の性
	15	1月22日：中垣内真樹；総括（まとめ）
	16	
キーワード	健康、生活習慣病、生涯スポーツ	
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。必要に応じて資料を配付する。 参考書：学生と健康，（編）国立大学等保健管理施設協議会，南江堂	
成績評価の方法・基準等	レポートまたは小テストの合計100%。毎回のテーマに関するレポートを総合して評価する。 各週のレポートあるいは小テストは、10点満点で評価し、15回の平均で評価する。	
受講要件（履修条件）	特になし	
備考（URL）		
学生へのメッセージ		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育(夜間主)**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 6
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140566011050	科目番号	05660110
授業科目名	●日本国憲法		
編集担当教員	井田 洋子		
授業担当教員名(科目責任者)	井田 洋子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	井田 洋子		
科目分類	人文・社会科学科目、自由選択科目、人文・社会科学科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[経] 本館 1 2 講義室		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	smile@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	[経]本館506		
担当教員TEL	095-820-6401		
担当教員オフィスアワー	木曜日17:00～18:00 (これ以外は事前にメールでコンタクトをとってください。)		
授業の概要及び位置づけ	現日本国憲法が掲げる普遍的原理としての基本的人権の尊重・国民主権・権力分立と、独自の価値としての戦争放棄及び象徴天皇制について、それぞれ、具体的事例の検証や他国の憲法状況との比較を交えながら考察する。そうした作業を通して、現日本国憲法の存在意義のみならず、「憲法」という法規範そのものの存在意義を探究することを目指す。		
授業到達目標	受講生が、①「憲法」の存在を身近なものとして捉えること、②様々な憲法問題を自らの生活に深く関わる問題として受け止めかつ考えること、なかでも、③現在再燃してきた憲法「改正」を巡る問題に対して、それが国の根本的なかたちを変えることに繋がっているという認識をもったうえで、主権者として主体的に関わろうとする姿勢を涵養すること、の3点を目指す。		
授業方法 (学習指導法)	講義形式にて行う。なお、教科書を使用するほか、授業内容に関するレジュメ(毎回) 及び関連する判例(適宜)を配布する。また、教員側による一方的な講義にならないよう、定期的なレポート提出によって、受講生に意見を述べる機会を保障する。		
	最初に、憲法を学ぶ上で欠かせないいくつかの基本概念について、一通り説明する。その後、人権問題、国家権力や戦争放棄を巡る問題等、多岐に亘る憲法問題の中から、毎回ひとつずつテーマを取り上げ、それについて国内外の具体的事例を引きながら考察を深めていく。		
	回	内容	
	1	第1回 4月11日 憲法とはなにか 基本概念の説明—法治国家、基本的人権、国民主権、民主主義、立憲主義等。	
	2	第2回 4月18日 象徴天皇制—大日本帝国憲法下での天皇制との比較、国民主権原理とのかかわり	
	3	第3回 4月25日 国民主権と選挙制度	
	4	第4回 5月2日 男女平等を巡る問題	
	5	第5回 5月9日 政教分離問題	

授業内容	6	第6回 5月16日 表現の自由1－表現の自由の意義と限界
	7	第7回 5月23日 表現の自由2－マス・メディアの表現の自由
	8	第8回 5月30日 表現の自由3－プライバシーの権利とのかかわり
	9	第9回 6月6日 刑事手続・裁判員制度
	10	第10回 6月13日 生存権・環境権
	11	第11回 6月20日 外国人の人権
	12	第12回 6月27日 国家権力の構造－立法権と行政権との関係
	13	第13回 7月4日 司法－違憲立法審査権
	14	第14回 7月11日 戦争放棄1
	15	第15回 7月18日 戦争放棄2－憲法改正問題とのかかわり
	16	第16回 8月1日 定期試験
キーワード	個人・国家・基本的人権・民主主義・立憲主義	
教科書・教材・参考書	教科書：大隈義和・大江正昭編『憲法学へのいざない』青林書院。 参考書：『セレクト六法』岩波書店、『コンパクト六法』有斐閣等、いずれかの六法書。	
成績評価の方法・基準等	レポート40%、定期試験60%の総合評価とする。なお、出席率が低い場合には、定期試験の受験資格を失うものとする。	
受講要件（履修条件）	特になし。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	新聞やテレビ等で定期的にニュースをチェックすることが、この授業の内容の理解を深めるために有用である。	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育(夜間主)**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木6
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140569061450	科目番号	05690614
授業科目名	●オランダの文化		
編集担当教員	山下 龍		
授業担当教員名(科目責任者)	山下 龍		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山下 龍		
科目分類	総合科学科目、総合科学科目、自由選択科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経] 新館201講義室		
対象学生（クラス等）	全学生		
担当教員Eメールアドレス	noboruy@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部非常勤講師室・文教キャンパス 言語教育研究センター		
担当教員TEL	095-819-2080		
担当教員オフィスアワー	講義の前後		
授業の概要及び位置づけ	日本と北ヨーロッパの中心国の一つとして発展してきたオランダとの交流が江戸初期に長崎から始まり、その交流が現在まで400年以上続いています。この講義ではオランダの文化と歴史を中心に、北ヨーロッパの歴史的発展、または、長崎と深い関わりのある日蘭交流について、基本的な知識の修得と文化理解を目的とします。		
授業到達目標	オランダ・北ヨーロッパの文化と歴史、または、日蘭交流についての基本的な知識を修得します。		
授業方法（学習指導法）	講義形式 この講義の為に作成した資料や視聴覚教材（powerpoint）を利用して、世界史が得意ではない学生にも、より分かりやすく、オランダの文化と歴史を紹介します。		
授業内容	ローマ時代前から現在までの歴史上の出来事を説明しながら、オランダの国とその発展を理解させます。オランダを知ることによって北ヨーロッパの文化の発展も理解することができます。		
	回	内容	
	1	オランダの紹介	
	2	9世紀までのオランダ ローマ帝国時代・キリスト教の流布・カール大帝の文化ルネッサンス	
	3	15世紀までのオランダ オランダ語文学の誕生・貿易国としての発展	
	4	16世紀までのオランダ エラスムスとヒューマニズム・ルターとプロテスタント教	
	5	16世紀までのオランダ オランダの独立戦争・ネーデルランデン7州連邦共和国の誕生	
	6	16世紀までのオランダ 15・16世紀の芸術家たち（ファン・エイク、ブリュゲルなど）	

	7	17世紀のオランダ オランダ東インド会社の創立・日蘭交流
	8	17世紀のオランダ 黄金時代の芸術（レンブラント・フェルメールなど）・世界貿易中心のオランダ
	9	17世紀のオランダ 黄金時代の学者たち・黄金時代の英雄たち・奴隷制
	10	18・19世紀のオランダ ナポレオンの時代・ネーデルラント王国の誕生
	11	19・20世紀のオランダ ゴッホの芸術・女性権利運動・第1次世界大戦・20世紀の芸術（モンドリアンなど）
	12	20世紀のオランダ 第2次世界大戦・インドネシアの独立
	13	オランダの宗教・祭り・伝統
	14	オランダの教育・政治・世界の中のオランダ
	15	講義の総括
	16	定期試験
キーワード		
教科書・教材・参考書	教材：プリント教材 毎回配布します。	
成績評価の方法・基準等	成績評価の方法・基準等 成績評価は、○定期試験70%、授業中の提出物30%で行います。	
受講要件（履修条件）	全回出席が原則。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育(夜間主)**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 6
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140569062850	科目番号	05690628
授業科目名	●長崎学		
編集担当教員	姫野 順一		
授業担当教員名(科目責任者)	姫野 順一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	姫野 順一		
科目分類	総合科学科目、総合科学科目、自由選択科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経] 本館 2 2 講義室		
対象学生（クラス等）	全学部		
担当教員Eメールアドレス	himeno@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業終了後		
授業の概要及び位置づけ	長崎の多様な機能と歴史的成り立ちを長崎学という地域学の体系で理解する。		
授業到達目標	長崎検定に挑戦できる学生の育成をめざす。		
授業方法（学習指導法）	文書、絵画、古写真、器物などに触れながら、長崎を体系的に学習する。		
授業内容	回	内容	
	1	長崎の歴史と長崎学	
	2	長崎の誕生	
	3	南蛮貿易と長崎	
	4	唐人貿易と長崎	
	5	出島の成立とその機能	
	6	出島の科学者たち	
	7	長崎版画に見る唐紅毛文化	
	8	蘭学物語	
	9	外国人居留地の形成	
	10	蘭学から洋学へ	
	11	写真技術の伝来	
	12	坂本龍馬の見た長崎	

	13	長崎を撮影した外国人写真家
	14	上野彦馬の生涯と写真
	15	明治・大正の長崎
	16	
キーワード	日蘭交渉、日中交渉、出島、蘭学、通詞、古写真、居留地、坂本龍馬、長崎学、原爆	
教科書・教材・参考書	参考書：姫野順一編『出島と西南雄藩』（九州大学出版会）、姫野順一著『龍馬が見た長崎』（朝日選書）、『長崎市史』（長崎市）	
成績評価の方法・基準等	毎回講義の概要をまとめ講義に対する感想を書いて提出する。 長崎に関するテーマを自分で決めて、最終レポートを提出する。	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	図書館の郷土資料コーナーやネットで関連することを調べる習慣をつける。	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育(夜間主)**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010E1	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール		
編集担当教員	岩田 安晴		
授業担当教員名(科目責任者)	岩田 安晴		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	岩田 安晴		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	yiwata@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	月曜日授業終了後		
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 知的活動への動機づけを高める。</li> <li>② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。</li> <li>③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。</li> <li>④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</li> </ol>		
授業方法（学習指導法）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。</li> <li>・ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。</li> </ul>		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 週1コマ、15週で2単位とする。</li> <li>・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。</li> <li>・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに</li> </ul>		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイドンス, メディアステーションガイドンス, 情報セキュリティに関する 授業などが適宜組み込まれる (クラスにより異なる)。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件 (履修条件)	
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	学習意欲を持って楽しんで取り組んでください。



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育(夜間主)**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010E2	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール		
編集担当教員	岡田 裕正		
授業担当教員名(科目責任者)	岡田 裕正		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	岡田 裕正		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 知的活動への動機づけを高める。</li> <li>② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。</li> <li>③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。</li> <li>④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</li> </ol>		
授業方法（学習指導法）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。</li> <li>・ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。</li> </ul>		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 週1コマ、15週で2単位とする。</li> <li>・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。</li> <li>・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに</li> </ul>		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイドンス, メディアステーションガイドンス, 情報セキュリティに関する 授業などが適宜組み込まれる (クラスにより異なる)。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件 (履修条件)	
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育(夜間主)**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010E3	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール		
編集担当教員	工藤 健		
授業担当教員名(科目責任者)	工藤 健		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	工藤 健		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>		
授業到達目標	<p>① 知的活動への動機づけを高める。          ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。          ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。          ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>		
授業方法（学習指導法）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。</li> <li>・ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。</li> </ul>		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 週1コマ、15週で2単位とする。</li> <li>・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。</li> <li>・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに</li> </ul>		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイドンス, メディアステーションガイドンス, 情報セキュリティに関する 授業などが適宜組み込まれる (クラスにより異なる)。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件 (履修条件)	
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育(夜間主)**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010E4	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール		
編集担当教員	土橋 力也		
授業担当教員名(科目責任者)	土橋 力也		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	土橋 力也		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>		
授業到達目標	<p>① 知的活動への動機づけを高める。          ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。          ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。          ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>		
授業方法（学習指導法）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。</li> <li>・ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。</li> </ul>		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週1コマ、15週で2単位とする。</li> <li>・自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。</li> <li>・各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに</li> </ul>		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイドンス, メディアステーションガイドンス, 情報セキュリティに関する 授業などが適宜組み込まれる (クラスにより異なる)。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件 (履修条件)	
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育(夜間主)**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405810010E5	科目番号	05810010
授業科目名	●教養ゼミナール		
編集担当教員	星野 光秀		
授業担当教員名(科目責任者)	星野 光秀		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	星野 光秀		
科目分類	教養ゼミナール科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	<p>知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p>		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 知的活動への動機づけを高める。</li> <li>② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。</li> <li>③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。</li> <li>④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</li> </ol>		
授業方法（学習指導法）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。</li> <li>・ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。</li> </ul>		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 週1コマ、15週で2単位とする。</li> <li>・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。</li> <li>・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに</li> </ul>		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイドンス, メディアステーションガイドンス, 情報セキュリティに関する 授業などが適宜組み込まれる (クラスにより異なる)。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加, 情報の収集状況・分析など), プレゼンテーション(わかりやすい資料, 話の構成, 説得力など), レポート(構成, 文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件 (履修条件)	
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス (教養教育科目)**」、開講所属「**教養教育(夜間主)**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木6
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140582001050	科目番号	05820010
授業科目名	●情報基礎		
編集担当教員	鈴木 斉		
授業担当教員名(科目責任者)	鈴木 斉		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	鈴木 斉		
科目分類	情報科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経] 本館MS 1		
対象学生 (クラス等)	経済学部夜間主コース		
担当教員Eメールアドレス	sigh@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部本館 631		
担当教員TEL	095-820-6372		
担当教員オフィスアワー	講義時間終了後、および、sigh@nagasaki-u.ac.jp にて受け付けています。		
授業の概要及び位置づけ	<p>授業の概要          情報化が進んだ現代において、「情報を使いこなす力」(情報リテラシー)が生活する上での「生きる力」の一つとなっている。長崎大学では、学生が生涯にわたって主体的な学修を行っていくための基礎として、情報リテラシーを1年次で身につけることとしている。本科目では、情報リテラシーの習得を目的として、情報機器や情報システム、ネットワークといった技術的知識、情報セキュリティや情報倫理などの生活知識を身に付けるとともに、様々な情報システムやソフトウェアの活用技術を習得する。</p> <p>授業の位置づけ          本科目は教養教育における情報科学科目である。</p>		
授業到達目標	<p>授業到達目標：          情報端末を正しく用いて情報を扱う情報リテラシーが身につくことを到達目標とする。この目標を達成するために、以下のサブ目標を挙げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報機器やネットワークの機能に関わる基本的事項を説明できる</li> <li>・情報機器やネットワークを利用する際の倫理やセキュリティを十分に理解し、ネットワークを活用できる</li> <li>・インターネット(Web)、電子メール、プレゼンテーション、文書作成、表計算を基本的に理解し、操作方法や活用方法を説明できる</li> <li>・情報資源・ネットワーク環境を利用して、情報を収集、分析、活用できる</li> </ul>		
授業方法 (学習指導法)	<p>授業方法：          授業は、講義と演習とを組み合わせを進めます。講義内容の理解を深めるために各自が所有する必携パソコンを利用して操作演習を行う演習課題や自習課題を出します。主体的学修促進支援システム (LACS) を、授業資料や演習課題の提示、課題回収や返却、各種連絡等に活用します。</p>		

授業内容	授業内容 原則として以下の内容に沿って授業を進めるが、進捗や理解度の状況に応じて若干の変更を行うことがあります。																																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス1 授業方法の説明、必携パソコンの初期設定、無線LAN接続実習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ガイダンス2 LACS紹介、Office365セットアップ、電子メール利用実習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>情報セキュリティ 情報セキュリティとは、利用者・組織が取るべきセキュリティ対策</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ネットワークの仕組み コンピュータのネットワーク、インターネットの構成</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>表計算1 Microsoft Excelの機能、基本操作、セルの参照、数式、表の書式設定</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>表計算2 グラフ作成・印刷、関数、複数シートを使ったデータ処理</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>表計算3 条件設定、複合グラフの作成、データの検索</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>表計算4 ピボットテーブル、マクロ活用</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>文書作成1 Microsoft Wordの操作、文字の書式、段落の書式 (1)、ページの設定</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>文書作成2 段落の書式 (2)、オブジェクトの操作、表の作成</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>文書作成3 Word・Excel連携演習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>プレゼンテーション1 プレゼンテーションとは、資料作成上の留意点、PowerPointについて</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>情報のデジタル化 情報のデジタル化とは、文字・音声・画像のデジタル化</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>プレゼンテーション2 プレゼンテーション実習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総合演習</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>まとめ、試験</td> </tr> </tbody> </table>	回	内容	1	ガイダンス1 授業方法の説明、必携パソコンの初期設定、無線LAN接続実習	2	ガイダンス2 LACS紹介、Office365セットアップ、電子メール利用実習	3	情報セキュリティ 情報セキュリティとは、利用者・組織が取るべきセキュリティ対策	4	ネットワークの仕組み コンピュータのネットワーク、インターネットの構成	5	表計算1 Microsoft Excelの機能、基本操作、セルの参照、数式、表の書式設定	6	表計算2 グラフ作成・印刷、関数、複数シートを使ったデータ処理	7	表計算3 条件設定、複合グラフの作成、データの検索	8	表計算4 ピボットテーブル、マクロ活用	9	文書作成1 Microsoft Wordの操作、文字の書式、段落の書式 (1)、ページの設定	10	文書作成2 段落の書式 (2)、オブジェクトの操作、表の作成	11	文書作成3 Word・Excel連携演習	12	プレゼンテーション1 プレゼンテーションとは、資料作成上の留意点、PowerPointについて	13	情報のデジタル化 情報のデジタル化とは、文字・音声・画像のデジタル化	14	プレゼンテーション2 プレゼンテーション実習	15	総合演習	16	まとめ、試験
	回	内容																																	
	1	ガイダンス1 授業方法の説明、必携パソコンの初期設定、無線LAN接続実習																																	
	2	ガイダンス2 LACS紹介、Office365セットアップ、電子メール利用実習																																	
	3	情報セキュリティ 情報セキュリティとは、利用者・組織が取るべきセキュリティ対策																																	
	4	ネットワークの仕組み コンピュータのネットワーク、インターネットの構成																																	
	5	表計算1 Microsoft Excelの機能、基本操作、セルの参照、数式、表の書式設定																																	
	6	表計算2 グラフ作成・印刷、関数、複数シートを使ったデータ処理																																	
	7	表計算3 条件設定、複合グラフの作成、データの検索																																	
	8	表計算4 ピボットテーブル、マクロ活用																																	
	9	文書作成1 Microsoft Wordの操作、文字の書式、段落の書式 (1)、ページの設定																																	
	10	文書作成2 段落の書式 (2)、オブジェクトの操作、表の作成																																	
	11	文書作成3 Word・Excel連携演習																																	
	12	プレゼンテーション1 プレゼンテーションとは、資料作成上の留意点、PowerPointについて																																	
	13	情報のデジタル化 情報のデジタル化とは、文字・音声・画像のデジタル化																																	
	14	プレゼンテーション2 プレゼンテーション実習																																	
15	総合演習																																		
16	まとめ、試験																																		
キーワード	情報リテラシー、情報倫理、情報セキュリティ、ネットワーク社会																																		
教科書・教材・参考書	教科書: 「情報基礎」(生協のみで購入可能。一般書店では入手できません)。教科書の購入を条件に、授業の講義資料(1冊)を授業時に配布します。 教材: 必要に応じて、資料や課題などをLACSにて公開します。																																		
成績評価の方法・基準等	定期試験 30% コンピュータの動作原理、情報を扱う上で必要となる倫理観等が実際に理解できているかを筆記式の試験で確認します。 演習課題 60% 機器操作を伴う課題への取り組みや完成状況を基に判断します。 授業への参加状況 10% 作業指示に従わない場合や演習妨害等の行為を減点とします。																																		
受講要件(履修条件)	Windows 8.1～7及びMS-Office Professional/Home&Business 2013/2010がインストールされたノートPC及びACアダプタを毎回必ず持参すること。 ※上記のMS-Office製品がインストールされていない場合、長崎大学生協にてOffice365の年間ライセンスまたはMS-Office Professional Academicを購入のこと。																																		
備考(URL)	<a href="https://lacs.nagasaki-u.ac.jp/">https://lacs.nagasaki-u.ac.jp/</a>																																		
学生へのメッセージ	コンピュータの操作に慣れていない場合は、毎日少しの時間でもキーボードに触れる時間をとることが望まれます。																																		



タイトル「**2014年度シラバス (教養教育科目)**」、開講所属「**教養教育(夜間主)**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月6
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587026999	科目番号	05870269
授業科目名	●安全で安心できる社会Ⅱ(医療現場の安全と安心)		
編集担当教員	松坂 誠應		
授業担当教員名(科目責任者)	松坂 誠應		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	松坂 誠應, 浦松 正, 長井 一浩, 梅田 正博		
科目分類	全学モジュールⅡ科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経] 新館101講義室		
対象学生(クラス等)	2年生		
担当教員Eメールアドレス	matsu_report@hotmail.com		
担当教員研究室	医学部保健学科3F		
担当教員TEL	095-819-7961		
担当教員オフィスアワー	木曜日午前中		
授業の概要及び位置づけ	医療や介護の現場で起こる諸問題を取り上げ、人間の安心と安全とは何かを学習するとともに、自らの生活の危機管理に生かす。		
授業到達目標	医療や介護現場における安心安全の内容とその背景を理解する。		
授業方法(学習指導法)	各教員(5名)の専門分野で話題になっている事象について講義してもらい、講義の後、科目責任者が授業のファシリテータとして講師に質問したり、あるいは学生に質問を促すことで授業の理解を深める。		
	<p>医療技術の進歩は人間の死や疾病への不安を和らげたが、その一方で患者取替え事件や薬害事件に端的に見られるように安心を損なう医療現場の問題への対応が重要性を増している。医療現場ではこうした問題にどのような対応がとられているかを考えることを通して、医療における安心とは何かを問うていく。</p> <p>各講師の授業内容を示す。</p> <p>松坂誠應(医学部保健学科教授)：介護と虐待(松坂, 佐々木で6回担当) 急速な高齢化に伴い介護を要する高齢者も急増している。特に認知症の高齢者は、従来の予測を大きく上回り、300万人を超え(厚労省推計2012.8)今後も増加が続くと見込まれている。それに伴い、介護の現場では高齢者に対する虐待も増加している。虐待には身体的なものだけでなく心理的・経済的虐待などがある。在宅介護における虐待の背景には介護者の介護疲れや社会的孤立、介護や病気についての知識不足などもあり、高齢者だけでなく介護者への支援も必要となる。「介護と虐待」というテーマを通して「安心して暮らせる社会」についても学習する。</p> <p>佐々木規子(医学部保健学科助教)：遺伝相談(松坂, 佐々木で6回担当) 近年、急速に進歩する遺伝医療は、診断、治療、健康管理などにおいて幅広く応用され役立てられている。しかしその一方で、未だ存在する遺伝に対する偏見や差別、遺伝情報の特殊性により遺伝の問題はより複雑になる可能性をもっている。遺伝医療の現状を知るとともに、誰に</p>		

授業内容	<p>も起こり得る遺伝の問題について考える。</p> <p>浦松 正（大学病院助教）：高度医療と安心安全（3回担当） 透析患者数は年々増加傾向にあり、2011年末には30万人を超えた。透析患者は、1回3～5時間の透析を週3回行う人が多く、この週3回の透析の安全性を担保することが重要となる。透析システム、安全な医療用具の供給、スタッフの訓練などにより安全性を高めている。透析医療において患者の安全に対してどのような対応がとられているかを中心に講義する。</p> <p>長井一浩（大学病院講師）：医療の不確実性（合併症と医療過誤）（3回担当） 医療技術の高度化は自然科学としての医科学の進歩を基盤としているが、実際の診療現場で行われる医療行為は、そういった「サイエンス」のみで成り立つものではなく、多様なリスクを伴わざるを得ない。本講では、医療現場における合併症や医療過誤とそのマネジメントへの取り組みを供覧することを通じて、現代医療の根底に横たわる「不確実性」とそれを取り巻く医療者・患者・社会間の諸相を考察する。</p> <p>梅田正博（歯学部教授）：摂食嚥下と口腔ケア（3回担当） 摂食嚥下は動物が生きるための基本的な行動であるが、加齢や脳血管障害、癌の手術後や放射線治療後など、さまざまな原因で摂食嚥下障害を生じることがある。摂食嚥下障害を生じると栄養摂取上の問題だけではなく、誤嚥性肺炎を生じ生命を脅かすという問題がある。ここでは、医療現場における安全・安心という側面から摂食嚥下を取り上げ、同時に誤嚥性肺炎の予防のために最近一般的になってきた「口腔ケア」についても学ぶ。</p>
キーワード	医療、介護、安心、安全
教科書・教材・参考書	講義時に資料を提供する。 随時、講義のテーマに関するURLや参考文献を提供する。
成績評価の方法・基準等	各講義後に提出するレポート（30％）、講義への貢献（30％）、最終講義時に提示する課題のレポート（40％）で判定する。
受講要件（履修条件）	全学モジュールⅠ「安全で安心できる社会」を受講した学生
備考（URL）	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育(夜間主)**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587027399	科目番号	05870273
授業科目名	●安全で安心できる社会Ⅱ(社会科学からみた安全・安心)		
編集担当教員	村田 嘉弘		
授業担当教員名(科目責任者)	村田 嘉弘		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	村田 嘉弘		
科目分類	全学モジュールⅡ科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経] 新館101講義室		
対象学生(クラス等)	夜間主コース		
担当教員Eメールアドレス	ymurata@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部本館5階507室		
担当教員TEL	095-820-6343		
担当教員オフィスアワー	講義終了後1時間		
授業の概要及び位置づけ	企業・団体ばかりでなく個人が購入可能な金融商品について、仕組みと、リスクとリターンとの関係について理解する。金融商品のリスクの計算・シミュレーションを通して、金融における安心・安全の考え方について正しい理解ができるようになる。		
授業到達目標	金融商品の説明書に書かれている項目の意味が理解できるようになること(⑦⑨)、また、それにより、その商品のリスクを自分で判断できるようになること(①②⑩)、更には、自分で簡単なシミュレーションを行えるようになること(①)を目標とする。		
授業方法(学習指導法)	「安全で安心できる社会」のモジュールⅠ科目「リスク社会と社会科学」とこのモジュールⅡ科目「社会科学からみた安心・安全」で金融リスクに関する1冊の教科書を読み通す。最初の科目で、教科書の1章から3章、この科目で4章から6章を学んでいく。ただし、最初の科目を履修していない場合と、履修したが理解不十分であった場合を想定し、この講義の最初の4回で教科書1章～3章の要点の復習を行う。その後、教科書4章～6章の内容を順を追って学んでいく。毎回学習内容振り返りの時間を設け、各人その日のまとめを行う。また、講義中に資産運用のシミュレーション実験をグループで行い、リスクに関する感覚を体感できるようにする。		
	回	内容	
	1	オリエンテーション 金融商品の基礎知識	
	2	リスクに関する基礎知識の復習①	
	3	リスクに関する基礎知識の復習②	
	4	リスクに関する基礎知識の復習③	
	5	金融商品を読み解く①	
	6	金融商品を読み解く②	

授業内容	7	金融商品を読み解く③
	8	金融商品を読み解く④
	9	中長期運用のリスクシミュレーション①
	10	中長期運用のリスクシミュレーション②
	11	中長期運用のリスクシミュレーション③
	12	中長期運用のリスクシミュレーション④
	13	精度を高めたシミュレーション①
	14	精度を高めたシミュレーション②
	15	精度を高めたシミュレーション③
	16	まとめ
キーワード	金融リスク、確率・統計、資産運用、オプション、リターン、シミュレーション	
教科書・教材・参考書	教科書：吉本佳生『確率・統計でわかる「金融リスク」のからくり』，講談社ブルーバック スB-1784（2012）	
成績評価の方法・基準等	レポート2回（50%×2）の成績で評価する。レポート①は8回の後、レポート②は15回 の後とする。60点以上が合格である。	
受講要件（履修条件）	教科書を利用するの予習と復習に週2時間以上をとること。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	できれば「安全で安心できる社会」のモジュールⅠ科目「リスク社会と社会科学」を学んでい る方が望ましい。	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育(夜間主)**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587028999	科目番号	05870289
授業科目名	●安全で安心できる社会Ⅱ(破壊事故とヒューマンファクタ)		
編集担当教員	勝田 順一		
授業担当教員名(科目責任者)	勝田 順一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	勝田 順一		
科目分類	全学モジュールⅡ科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経] 新館101講義室		
対象学生(クラス等)	夜間 安全で安心できる社会		
担当教員Eメールアドレス	katsuta@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	文教町キャンパス 工学部1号館5階 教官・ゼミ室504		
担当教員TEL	095-819-2599		
担当教員オフィスアワー	基本的には講義終了後講義室, またはmailで受け付ける。研究室に在室中は随時受け付ける。		
授業の概要及び位置づけ	<p>“ものづくり”は、建造するものが壊れないように、要求される性能を十分に発揮できるようにする必要がある。ところが、実際には、様々な“もの”が様々な原因で壊れ、時には悲惨な事故となることがある。</p> <p>講義では、様々な学部にも所属し、将来いろいろな分野に進む学生を対象に、“ものづくり”の成果や破壊事故の実情を講義とビデオにより紹介する。また、“もの”が壊れる条件についてわかりやすく説明する。</p> <p>さらに、近年、事故発生に人のミスが関わっているとの多くの指摘がある。ヒューマン・エラーについて体験させ、人のミスを防ぐための安全確保策の考え方について紹介することを目的とする。</p>		
授業到達目標	この講義によって、実際の「ものづくり」に携わらなくても、新聞等での事故報道に対する理解が深まること、学生の身近な生活の中で利用可能なヒューマン・エラー対策の基礎的考察ができることを到達目標とする。		
授業方法(学習指導法)	講義は、パワーポイントによる座学での解説とビデオでの事例の視聴によって行う。自主学習としてレポートを課す。また、後半のヒューマン・ファクタの項目では、学生自身による体験を行う。 講義中の受講態度や遅刻については、特に成績評価に反映させるので、真摯な態度での受講を求める。		
	<p>“ものづくり”の手順、“もの”が壊れる原因について講義した上で、破壊事故の事例をビデオで視聴する。</p> <p>事例によっては、講義室で簡単な実験で事故原因を体験する。</p> <p>事故には、個人の知識不足や不注意だけでなく、ヒューマン・ファクタや組織の原因が大きく影響することを理解するために、簡単なヒューマン・エラーを起こす体験を行う。</p> <p>これらのことによって、誰でもが、一生懸命やっても、優秀であっても、陥る可能性があるミ</p>		

授業内容	<p>スについて,実態と対策を考える。</p> <p>第 1 回 講義の概論, 講義の目的,"ものづくり"の成果  第 2 回 "ものづくり"の成果と破壊事故分析  第 3 回 力に対する材料の限界, 破壊とは  第 4 回 最近の事故例における発生の背景  第 5 回 事故例と事故分析  第 6 回 工学的安全システムの有効・無効  第 7 回 "ものづくり"における『安全』とは  第 8 回 "ものづくり"における安心と市民の『安心』とは  第 9 回 技術者の責任と市民の責任  第 10 回 人が犯すミスとその背景, および体験  第 11 回 想定される失敗と想定されない失敗, および体験  第 12 回 思い込みと錯覚による安全喪失  第 13 回 外部情報と脳の受容情報  第 14 回 人の理解と脳の理解, その行動  第 15 回 安心文化の醸成のためには</p>
キーワード	破壊事故, 医療事故, 組織事故, 安心・安全, ヒューマン・ファクタ, 脳科学, 認知科学
教科書・教材・参考書	教科書は用いず, 教員作成の講義資料(プロジェクト), ビデオ, 配布資料, 実験資料によって行う。 必要に応じて, 参考文献を講義中に紹介する。
成績評価の方法・基準等	提示されたテーマに対する自身で考えたことを主とするレポートのみによって100%評価する。定期試験は実施しない。未提出の課題やレポートがある場合は, 不合格とする。課題レポートでは, 自分自身の多面的な考察, 意見, 感想のみを評価し, 講義内容を記した部分は評価対象外とする。レポートでの得点で合格に達した者については, 受講態度や自主学習を考慮して, 成績を報告する。
受講要件(履修条件)	欠席は認めず, 全回出席を原則とする。やむを得ない理由がある場合のみ, 個別指導を行う。なお, 高等学校までの物理学の受講の有無は問わない。
備考(URL)	
学生へのメッセージ	準備は必要ないが, 講義後のレポート作成に重点をおくことを求める。



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育(夜間主)**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 7
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587029399	科目番号	05870293
授業科目名	●安全で安心できる社会Ⅱ(水環境の安全と安心)		
編集担当教員	田邊 秀二		
授業担当教員名(科目責任者)	田邊 秀二		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	田邊 秀二, 夢田 彰秀		
科目分類	全学モジュールⅡ科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経] 新館101講義室		
対象学生(クラス等)	経済(夜間主)		
担当教員Eメールアドレス	s-tanabe@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	工学研究科(総合教育研究棟7F709)		
担当教員TEL	095-819-2659		
担当教員オフィスアワー	12:00~12:50(事前にメールで連絡すること)		
授業の概要及び位置づけ	日本は地球の温帯地域にあり、四季を通じて降雨があるため水には恵まれてきた。しかし、途上国においては、安全な飲料水の確保は喫緊の問題であり、日本に限らず、先進国の水処理技術の導入が急がれている。この講義では、工学研究科の水環境技術者育成に関わる教員により、水環境に関する技術の現状、問題点を整理し、日本の持つ先進的なモニタリング技術、アセスメント、膜や生物処理を使った最先端水処理技術などを理解することで、普段気づかない水環境の安全・安心について考える。		
授業到達目標	水環境に関する問題について解説できる。水環境のモニタリング技術、廃棄物問題、水処理技術について説明できる。		
授業方法(学習指導法)	講義を基本とする。必要に応じてアクティブラーニング手法を取り入れる。		
授業内容	回	内容	
	1	オリエンテーション：有明海や水俣湾における水環境の現状	
	2	水環境モニタリング技術について	
	3	水道と水源池	
	4	水源を守る	
	5	日本国内外の廃棄物処理の現状から起こる、水問題について(1)	
	6	日本国内外の廃棄物処理の現状から起こる、水問題について(2)	
	7	化学薬品、重金属などの危険物質の現状と対策について	
	8	世界の水環境問題と膜分離技術の貢献について	
	9	＜水を造る＞膜分離技術概論－現状と展望－	
	10	＜水を再生する＞膜分離技術概論－現状と展望－	

	11	水環境生態系の保全と修復
	12	環境シミュレーションの方法と数値計算の原理
	13	コンピュータによる数値計算の手続き
	14	環境問題へのシミュレーションの応用例
	15	水環境の安全・安心に関する総括と評価試験
	16	評価結果に対する指導
キーワード	水、膜、廃棄物、水環境、分離、生物処理、シミュレーション	
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。必要があればプリントを配付し、参考書を紹介する。	
成績評価の方法・基準等	講義への積極的参加(40%)、レポート課題の評価(60%)の総合点で評価する。	
受講要件(履修条件)	特になし	
備考(URL)		
学生へのメッセージ		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育(夜間主)**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 6
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587043399	科目番号	05870433
授業科目名	●安全で安心できる社会Ⅱ(安全と安心の街づくり)		
編集担当教員	植木 とみ子		
授業担当教員名(科目責任者)	植木 とみ子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	植木 とみ子		
科目分類	全学モジュールⅡ科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経] 新館101講義室		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	tuterrace@kzh.biglobe.ne.jp		
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	eメールにて随時受け付けます		
授業の概要及び位置づけ	安全安心というキーワードを通して、真に豊かな生活を考える		
授業到達目標	真に民主政治を担うことが出来る、自立した個人を育成する		
授業方法(学習指導法)	課題に関する資料の読み込み、ディスカッション、共通理解		
授業内容	安全安心の街とは何かをあらゆる方面から考え、その中での個人の役割を認識する		
	回	内容	
	1	防災 あなたにとって安全安心の街とは	
	2	防災 具体的な行動	
	3	防犯 無力な存在はどう護られるか	
	4	防犯 あなたは安全な環境にいるか	
	5	防犯 あなた自身の心は安全か	
	6	安全安心の街とは 長崎は住みやすいか	
	7	環境・街づくり 長崎の道路事情	
	8	環境・街づくり ユニバーサルデザインの街	
	9	環境・街づくり 水資源をどう護るか	
	10	環境・街づくり ごみ減量の取組み	
	11	子育て・教育 母親の孤立を防ぐ	
	12	高齢者・障害者 弱者支援とは	
	13	地域での共生を考える	
14	生活の中での安全安心 食品問題と消費者問題		

	15	安全安心の街はどう造られるか
	16	
キーワード		
教科書・教材・参考書	植木とみ子著「市役所の女」海鳥社、プリント、行政資料	
成績評価の方法・基準等	課題30%、授業参加度30%、試験40%	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	常に社会の出来事をチェックし、自分との関係を考えること	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育(夜間主)**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 6
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140588020850	科目番号	05880208
授業科目名	●環境と進化と多様性		
編集担当教員	林 亮太		
授業担当教員名(科目責任者)	林 亮太		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	林 亮太		
科目分類	総合科学科目、総合科学科目、自由選択科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経] 本館 2 1 講義室		
対象学生 (クラス等)	1年,2年,3年,4年		
担当教員Eメールアドレス	rhayashi72@gmail.com		
担当教員研究室	西海区水産研究所特任部長室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	環境に応じて多様化した生物の生活史を紹介し、「進化」について体系的に理解してもらう。		
授業到達目標	進化の概観を理解する。		
授業方法 (学習指導法)	スライド、ハンドアウト、板書きによる講義。不定期に課すレポートと発表で理解度を評価する。		
授業内容	<p>現在地球上には、様々な環境が存在し、それぞれの環境ごとに多様な生物が存在している。現在の全世界の既知の総生物種数は約175万種以上ともされている一方、未だ知られていない生物も多くいると考えられている。本講義では、多様な生物を生み出すメカニズムである「進化」をキーワードに、様々な生態系ごとにその環境条件の特徴とそれに適応して生息する生物たちの特徴について解説する。進化生物学、動物行動学、分子系統学などの諸分野の研究成果の紹介を通し、その密接な関係を理解することを目標とする。講義では特に教科書を指定しない。適宜参考文献を紹介する。</p>		
	回	内容	
	1	成績評価法の説明、講義内容紹介	
	2	進化とは何か？	
	3	適応とは何か？	
	4	環境要因について	
	5	進化生態学とはなにか	
	6	海洋環境における進化・適応の例 1	
	7	海洋環境における進化・適応の例 2	
8	陸上における進化・適応の例 1		

	9	陸上における進化・適応の例2
	10	島という環境
	11	寄生・共生
	12	生物の絶滅
	13	外来生物問題
	14	生物多様性について
	15	講義の総括 (一項目が一回の講義に対応しているわけではなく、講義の震度に応じてスケジュールは調整・変更されます)
16		
キーワード	生態学、進化、生物多様性	
教科書・教材・参考書	特に指定しない。適宜、資料を配布する。	
成績評価の方法・基準等	課題レポート(80%)、発表等(20%)で成績評価を行う。	
受講要件(履修条件)		
備考(URL)		
学生へのメッセージ		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育(夜間主)**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火7
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590001050	科目番号	05900010
授業科目名	●英語コミュニケーションI		
編集担当教員	吉村 宗司		
授業担当教員名(科目責任者)	吉村 宗司		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	吉村 宗司		
科目分類	外国語科目、A科目群 外国語科目、外国語科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[経] 本館MS 1		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	soshi@tea.ocn.ne.jp		
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業終了後 (21:10~21:30/授業時の教室)		
授業の概要及び位置づけ	<p>対話や会話といった、コミュニケーションを主要目的とする言葉のやりとりについては、なによりも相手を理解するための聴解力を基盤に持つことが必要である。発話力というのも聴解力あつての発話力であつて、聴解力さえ身につけば、発話力はそれに応じて自然にその進歩が期待できるものである。本講座では、これまで聞くことにあまり時間を割いてこなかった学校教育の弊害を可能な限り克服する意味で、サバイバル英語（米語） - 必要最低限の英語（米語） - を徹底的に学びながら、聴解力と発話力の増強を図ることを第一義的な目的に据えるものである。位置づけとしては、その能力促進に力点を置いたものと言える。</p>		
授業到達目標	<p>本講座の受講によって、これまで英米語のリスニングに際し、疑問であつたことが解消されるはずである。また、受講者のトレーニング次第では、外国人との英会話をはじめ、洋楽、映画、英語ニュースの視聴時に、上達の喜びを体感できるものと思われる。『英語が止まって聞こえる』ようになることが究極の目標であるが、英語国民と日常会話レベルでコミュニケーションを図ることができるリスニング力とスピーキング力を習得することが当座の目標である。また、並行してTOEICテストや各種英語検定試験などのリスニング部門で現状以上の得点をあげるとともに、特にTOEICテストのスコアでは550点を突破する実用英語運用能力を習得することを目標に掲げたい。</p>		
授業方法 (学習指導法)	<p>まずは、聴解力の増強に極めて効果的な英音・米音の音声的特徴や法則性（音法）について解説し、聴解力と発話力のバランスをとりながら、英語（米語）の運用能力を習得するトレーニングを行っていく。なお、マテリアルとしては、日常会話表現や旅行英会話、洋楽、時事（ニュース）等、実用性の高いものを取り上げていく予定である。</p>		
	<p>授業内容（概要）          前半は、聴解力を増強させるうえで必須となる音声に関する知識の基礎固めを行なう。具体的には、基礎知識、及びリスニングに極めて有効な英音・米音の音声的特徴と法則性（音法）の習得である。中盤から後半は、リスニングとスピーキングのバランスをとりながら、発音矯正と並行して発話力の増強を目指す。限られた時間で実用英米語運用能力を促進させるトレーニングを行っていくとともに、必要に応じて比較文化的視座から文化に関する実利的なトピックも織り交ぜつつ、言語と文化を包括して共時的に学ぶことを視野に入れた解説も展開する。</p>		

	回	内容
授業内容	1	オリエンテーション（授業方針についての説明、教材の配布、アンケートほか）
	2	『なぜ日本人は英語の聞き取りが苦手なのか？』－分析結果の報告と対策法について
	3	プレテスト、つながる音とカタカナ英語、近似カナ表記、母音、半母音/j/, /w/, /r/
	4	/r/と//の発音、子音、調音形式、調音点、有声音と無声音、閉鎖音についての解説
	5	子音の分類表を基にした音素に関する基礎知識の確認、単語レベルの発音クリニック
	6	『音の連結』を聞き取るパターン（リエゾンの原則）、/t/, /d/, /g/の脱落、/t/, /d/のラ行音化
	7	連結しない場合の//, /h/の脱落、半母音/j/, /n/+/t/と/n/+/d/による音変化
	8	『閉鎖音の連続による脱落』、『同じ子音の連続による脱落』を聞き取るパターン
	9	『同化』を聞き取るパターン(1)（半母音/j/に絡む音変化①）
	10	『同化』を聞き取るパターン(2)（半母音/j/に絡む音変化②）、『調音点が近い子音の連続』を聞き取るパターン
	11	『同化』を聞き取るパターン(3)（/n/の後続音への影響）
	12	On an Airplane(1)
	13	On an Airplane(2)
	14	At an Airport(1)、洋楽を聞き取る
	15	At an Airport(2)、洋楽を聞き取る、まとめ
		16
キーワード	音法	
教科書・教材・参考書	(1) 英語リスニング - 聞き取るための入門講座（ハンドアウト教材） (2) American（ハンドアウト教材）	
成績評価の方法・基準等	定期試験80%、受講態度、及び授業中の自発的な演習活動（授業中の発表）20%、等の総合判定によって評価を行なう。	
受講要件（履修条件）	配布された教材に対する予習復習は必須である。特に、毎時学んだ内容に関し、毎日のトレーニングを継続させることによって、実用英米語運用能力の促進が可能となる。したがって、復習に力点を置いた学習姿勢が望まれる。なお、授業時には発表活動(積極的かつ自発的な発言等)が求められるが、これをポイント制として成績評価の際に加算するため、自主的な姿勢で臨んでほしい。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	授業時には辞書必携です。授業時間内での学習のみで能力を促進させるには限界があるため、例えばNHK教育テレビやラジオの語学番組等を視聴、聴取するなど、とにかく毎日英語に接する時間を捻出することが望めます。英語に親しむことを習慣にできれば上達は必ず期待できます。限られた時間ですが、一緒にがんばりましょう!!	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育(夜間主)**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火7
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590001051	科目番号	05900010
授業科目名	●英語コミュニケーションI		
編集担当教員	吉村 宗司		
授業担当教員名(科目責任者)	吉村 宗司		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	吉村 宗司		
科目分類	外国語科目、A科目群 外国語科目、外国語科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[経] 本館MS1		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	soshi@tea.ocn.ne.jp		
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業終了後（21:10～21:30／授業時の教室）		
授業の概要及び位置づけ	<p>対話や会話といった、コミュニケーションを主要目的とする言葉のやりとりについては、なによりも相手を理解するための聴解力を基盤に持つことが必要である。発話力というのも聴解力あつての発話力であつて、聴解力さえ身につけば、発話力はそれに応じて自然にその進歩が期待できるものである。本講座では、これまで聞くことにあまり時間を割いてこなかった学校教育の弊害を可能な限り克服する意味で、サバイバル英語（米語） - 必要最低限の英語（米語） - を徹底的に学びながら、聴解力と発話力の増強を図ることを第一義的な目的に据えるものである。位置づけとしては、その能力促進に力点を置いたものと言える。</p>		
授業到達目標	<p>本講座の受講によって、これまで英米語のリスニングに際し、疑問であつたことが解消されるはずである。また、受講者のトレーニング次第では、外国人との英会話をはじめ、洋楽、映画、英語ニュースの視聴時に、上達の喜びを体感できるものと思われる。『英語が止まって聞こえる』ようになることが究極の目標であるが、英語国民と日常会話レベルでコミュニケーションを図ることができるリスニング力とスピーキング力を習得することが当座の目標である。また、並行してTOEICテストや各種英語検定試験などのリスニング部門で現状以上の得点をあげるとともに、特にTOEICテストのスコアでは550点を突破する実用英語運用能力を習得することを目標に掲げたい。</p>		
授業方法（学習指導法）	<p>まずは、聴解力の増強に極めて効果的な英音・米音の音声的特徴や法則性（音法）について解説し、聴解力と発話力のバランスをとりながら、英語（米語）の運用能力を習得するトレーニングを行っていく。なお、マテリアルとしては、日常会話表現や旅行英会話、洋楽、時事（ニュース）等、実用性の高いものを取り上げていく予定である。</p>		
	<p>授業内容（概要）          前半は、聴解力を増強させるうえで必須となる音声に関する知識の基礎固めを行なう。具体的には、基礎知識、及びリスニングに極めて有効な英音・米音の音声的特徴と法則性（音法）の習得である。中盤から後半は、リスニングとスピーキングのバランスをとりながら、発音矯正と並行して発話力の増強を目指す。限られた時間で実用英米語運用能力を促進させるトレーニングを行っていくとともに、必要に応じて比較文化的視座から文化に関する実利的なトピックも織り交ぜつつ、言語と文化を包括して共時的に学ぶことを視野に入れた解説も展開する。</p>		

	回	内容
授業内容	1	オリエンテーション（授業方針についての説明、教材の配布、アンケートほか）
	2	『なぜ日本人は英語の聞き取りが苦手なのか？』－分析結果の報告と対策法について
	3	プレテスト、つながる音とカタカナ英語、近似カナ表記、母音、半母音/j/, /w/, /r/
	4	/r/と//の発音、子音、調音形式、調音点、有声音と無声音、閉鎖音についての解説
	5	子音の分類表を基にした音素に関する基礎知識の確認、単語レベルの発音クリニック
	6	『音の連結』を聞き取るパターン（リエゾンの原則）、/t/, /d/, /g/の脱落、/t/, /d/のラ行音化
	7	連結しない場合の//, /h/の脱落、半母音/j/, /n/+/t/と/n/+/d/による音変化
	8	『閉鎖音の連続による脱落』、『同じ子音の連続による脱落』を聞き取るパターン
	9	『同化』を聞き取るパターン(1)（半母音/j/に絡む音変化①）
	10	『同化』を聞き取るパターン(2)（半母音/j/に絡む音変化②）、『調音点が近い子音の連続』を聞き取るパターン
	11	『同化』を聞き取るパターン(3)（/n/の後続音への影響）
	12	On an Airplane(1)
	13	On an Airplane(2)
	14	At an Airport(1)、洋楽を聞き取る
	15	At an Airport(2)、洋楽を聞き取る、まとめ
		16
キーワード	音法	
教科書・教材・参考書	(1) 英語リスニング - 聞き取るための入門講座（ハンドアウト教材） (2) American（ハンドアウト教材）	
成績評価の方法・基準等	定期試験80%、受講態度、及び授業中の自発的な演習活動（授業中の発表）20%、等の総合判定によって評価を行なう。	
受講要件（履修条件）	配布された教材に対する予習復習は必須である。特に、毎時学んだ内容に関し、毎日のトレーニングを継続させることによって、実用英米語運用能力の促進が可能となる。したがって、復習に力点を置いた学習姿勢が望まれる。なお、授業時には発表活動(積極的かつ自発的な発言等)が求められるが、これをポイント制として成績評価の際に加算するため、自主的な姿勢で臨んでほしい。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	授業時には辞書必携です。授業時間内での学習のみで能力を促進させるには限界があるため、例えばNHK教育テレビやラジオの語学番組等を視聴、聴取するなど、とにかく毎日英語に接する時間を捻出することが望めます。英語に親しむことを習慣にできれば上達は必ず期待できます。限られた時間ですが、一緒にがんばりましょう!!	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育(夜間主)**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火7
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590003050	科目番号	05900030
授業科目名	●英語コミュニケーションII		
編集担当教員	丸山 真純		
授業担当教員名(科目責任者)	丸山 真純		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	丸山 真純		
科目分類	外国語科目、A科目群 外国語科目、外国語科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[経] CALL教室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	masazumi@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	東南アジア研究所312		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	月 17：00－18：30		
授業の概要及び位置づけ	<p>毎回1つの語について、よく用いられる使い方を学ぶ(具体的な語については以下を参照)。コミュニケーションのクラスなので、簡単なスキットを見ながら、表現を学んでいく。また、表現力を増強するために、そうした表現を用いた別の表現なども学んでいく。取り上げる表現は基本的な動詞であり、その他の語彙についても基本的なものが中心となる。語を単独に学ぶのではなく、コロケーション(語と語の結びつき)で学んでいきたい。例えば、comeという動詞は、多くの場合、come toの形で用いられる (come とtoが結びつきやすい)。それぞれをばらばらで学ぶのではなく、まとめ、そして、会話の文脈の中で学んでいく。</p>		
授業到達目標	基本的な動詞に関する文法とそのための語彙の理解。		
授業方法（学習指導法）	CALL教室にて、担当教員による解説のほか、Pair-Work Group-Workなど、コミュニケーション活動を重視する		
	教科書に基づき、以下の事柄を学習し、実際に運用できるようにする。具体的な内容は以下の通り。		
	回	内容	
	1	Introduction	
	2	be(1)	
	3	have(1)	
	4	do(1)	
	5	get (1)	
	6	Quiz 1	
		go(1)	

授業内容	7	say(1)
	8	know(1)
	9	think(1)
	10	Quiz 2
		be(2)
	11	see(1)
	12	come (1)
	13	mean (1)
	14	have(2)
	15	Catch-up & Review
16	Quiz 3	
キーワード		
教科書・教材・参考書	資料を配布する	
成績評価の方法・基準等	<p>毎回、授業の最初に、授業で学んだ表現についての簡単な確認を行う。また、授業の終わりには、ふりかえりを提出してもらい、これらが全体で40点に相当する。</p> <p>また、小テストを3回行う(最後の小テストはテスト期間になる予定)。1回20点×3回=60点である。</p> <p>授業での皆さんの反応を見ながら、これ以外の課題を課す場合もある。その際は、上記の代替になるか、あるいは、ボーナス・ポイントとする。</p>	
受講要件 (履修条件)		
備考 (URL)		
学生へのメッセージ	<p>科目の性格上、全授業の1/3以上の欠席者には、単位が与えられない。</p> <p>辞書は必ず毎回持参すること。</p>	



タイトル「**2014年度シラバス (教養教育科目)**」、開講所属「**教養教育(夜間主)**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火7
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590003051	科目番号	05900030
授業科目名	●英語コミュニケーションII		
編集担当教員	白水 桂子		
授業担当教員名(科目責任者)	白水 桂子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	白水 桂子		
科目分類	外国語科目、A科目群 外国語科目、外国語科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[経] CALL教室		
対象学生 (クラス等)	夜間主コース		
担当教員Eメールアドレス	kuwata@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	東南アジア研究所2階		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	木曜日17:00~17:50、授業直後、またはメールで受け付けます。		
授業の概要及び位置づけ	基礎的な語彙や文法の確認に重点を置き、対話の音読や英文の筆写で記憶を定着させる事を目標にします。		
授業到達目標	基礎的文法事項を身に付けた上で、やさしい英文の読み書きが出来るようになる。		
授業方法 (学習指導法)	予習してきた内容の確認をした後、文法事項の練習問題をします。また、ListeningやペアでのSpeakingの練習、対話の筆写も行います。		
	指定箇所を授業の予習として済ませてきてください。授業では、WARM-UPで取り上げた文法事項の確認問題、対話の空所補充や音読の練習をします。復習テストや対話の筆写等も予定しています。Webでの学習も指示します。		
	回	内容	
	1	オリエンテーション 01 Pleased to meet you. be動詞	
	2	02 Do you remember me? 一般動詞 (現在)	
	3	03 I spoke to Ms. Hayashi yesterday. 一般動詞 (過去)	
	4	04 When does the meeting start? 疑問詞	
	5	05 Can you meet me at the airport? 助動詞 1	
	6	06 Feel free to ask me anytime. 文の種類、命令文	

授業内容	7	07 I'm thinking about quitting my job. 進行形
	8	復習テスト（予定） 08 I'll give her your message. 未来形
	9	09 I haven't received the latest figures. 現在完了形
	10	10 The cafeteria is closed today. 受動態
	11	11 We expect higher sales in China. 比較
	12	12 I'd like to check in. 助動詞 2
	13	13 How about going to the theater? 動名詞
	14	14 I like to travel a lot. to不定詞
	15	15 What are your plans for the future? 接続詞
	16	授業の総括（試験を含む）
キーワード		
教科書・教材・参考書	角山照彦・Simon Capper（著）Let's Read Aloud & Learn English!（音読で始める基礎英語）成美堂	
成績評価の方法・基準等	復習テスト・期末試験60% 授業への積極的参加状況（課題なども含む）40% 以上により総合的に評価します。	
受講要件（履修条件）	ある一定の回数以上欠席した場合は、期末試験の受験資格がなくなります。20分以上の遅刻や授業終了前の早退は欠席と見なします。特別な事情がある場合は個別に相談してください。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育(夜間主)**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木6																
開講期間																			
必修選択	必	単位数	1.0																
時間割コード	20140590005050	科目番号	05900050																
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ																		
編集担当教員	丸山 真純																		
授業担当教員名(科目責任者)	丸山 真純																		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	丸山 真純																		
科目分類	外国語科目、A科目群 外国語科目、外国語科目																		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目																
教室	[経] 新館101講義室																		
対象学生(クラス等)																			
担当教員Eメールアドレス	masazumi@nagasaki-u.ac.jp																		
担当教員研究室	東南アジア研究所312																		
担当教員TEL	820-6376																		
担当教員オフィスアワー	金 17:00-18:00																		
授業の概要及び位置づけ	<p>基本動詞について、イメージ、および、よく用いられる使い方を学ぶ(具体的な語については以下を参照)。</p> <p>コミュニケーションのクラスなので、表現を中心に学んでいく。また、表現力を増強するために、語を単独に学ぶのではなく、コロケーション(語と語の結びつき)で学んでいきたい。例えば、comeという動詞は、多くの場合、come toの形で用いられる(come とtoが結びつきやすい)。それぞれをばらばらで学ぶのではなく、まとまりとして学んでいく。</p>																		
授業到達目標	基本的な動詞に関する文法とそのための語彙の理解。																		
授業方法(学習指導法)	CALL教室にて、担当教員による解説のほか、Pair-Work Group-Workなど、コミュニケーション活動を重視する																		
授業内容	<p>教科書に基づき、以下の事柄を学習し、実際に運用できるようにする。具体的な内容は以下の通り。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Introduction</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>take, give, get, catch</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>have, hold, keep, put</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>set, be, make, break, cut</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>go, come, bring, carry</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Quiz 1 run, do</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>look/see, listen/hear</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	Introduction	2	take, give, get, catch	3	have, hold, keep, put	4	set, be, make, break, cut	5	go, come, bring, carry	6	Quiz 1 run, do	7	look/see, listen/hear
回	内容																		
1	Introduction																		
2	take, give, get, catch																		
3	have, hold, keep, put																		
4	set, be, make, break, cut																		
5	go, come, bring, carry																		
6	Quiz 1 run, do																		
7	look/see, listen/hear																		

	8	speak/talk, say/tell
	9	push/press, pull/draw
	10	Quiz 2 spread/extend
	11	close/shut, fall/drop
	12	lift/raise, remain/stay
	13	lay/lie, hit/strike
	14	throw/cast, clear/clean
	15	Catch-up & Review
	16	Quiz 3
キーワード	ことばと世界観 ことばと認識 コアイメージ	
教科書・教材・参考書	『英語のパワー基本語 基本動詞編』田中茂範 著 コスモピア。 <a href="http://www.cosmopier.com/shoseki/pdf/other/power-doshi_contents.pdf">http://www.cosmopier.com/shoseki/pdf/other/power-doshi_contents.pdf</a>	
成績評価の方法・基準等	毎回、授業最初に、授業で学んだ表現についての簡単な確認を行う。また、授業後には、ふりかえりを行う。これらは全体で40点に相当する。 また、小テストを3回行う(最後の小テストはテスト期間になる予定)。1回20点×3回=60点である。 授業での皆さんの反応を見ながら、これ以外の課題を課す場合もある。その際は、上記の代替になるか、あるいは、ボーナス・ポイントとする。	
受講要件 (履修条件)		
備考 (URL)		
学生へのメッセージ	科目の性格上、全授業の1/3以上の欠席者には、単位が与えられない。 辞書は必ず毎回持参すること。	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育(夜間主)**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木6
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590005051	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ		
編集担当教員	白水 桂子		
授業担当教員名(科目責任者)	白水 桂子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	白水 桂子		
科目分類	外国語科目、A科目群 外国語科目、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[経] CALL教室		
対象学生（クラス等）	夜間主コース		
担当教員Eメールアドレス	kuwata@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	東南アジア研究所2階		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	木曜日17:00～17:50、授業直後、またはメールで受け付けます。		
授業の概要及び位置づけ	視聴覚教材を使用して、英語の聴解力や語彙力をつけること、また、様々なタスクを行うことで、総合的な英語運用能力を向上させることを目指します。		
授業到達目標	英語のリスニングに慣れ、大意が把握できるようになること。基本的な英語の構造が理解できること。		
授業方法（学習指導法）	自習用のDVDで予習してきた内容の確認をした後、英語のナレーションの内容を把握する。音読やペアでの会話の練習も行います。		
授業内容	回	内容	
	1	オリエンテーション Unit 1 Laughter	
	2	Unit 2 Hats	
	3	Unit 3 Sphinx's Nose	
	4	Unit 4 Terracotta Warriors	
	5	Unit 5 Silver and Platinum	
	6	Unit 6 Athens	
	7	Unit 7 Skydiving	
	8	復習テスト（予定）	
	9	Unit 8 Food and Society	
	10	Unit 9 Shinjuku Station	
11	Unit 10 Bali's Temples		

	12	Unit 11 Car Recycling
	13	Unit 12 Hi-Tech Farming
	14	Unit 13 Honolulu
	15	Unit 14 Life on Volcanoes
	16	授業の総括（試験を含む）
キーワード		
教科書・教材・参考書	森田 彰(他)著 BBC World Profile on DVD (南雲堂)	
成績評価の方法・基準等	期末試験 60% 授業への積極的参加状況（小テスト、課題なども含む）40% 以上により総合的に評価します。	
受講要件（履修条件）	ある一定の回数以上欠席した場合は、期末試験の受験資格がなくなります。30分以上の遅刻や授業終了前の早退は欠席と見なします。特別な事情がある場合は個別に相談してください。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育(夜間主)**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	水7
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590009050	科目番号	05900090
授業科目名	●総合英語Ⅰ		
編集担当教員	前川 智子		
授業担当教員名(科目責任者)	前川 智子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	前川 智子		
科目分類	外国語科目、外国語科目、B科目群 外国語科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[経] 新館101講義室		
対象学生（クラス等）	夜間主コース		
担当教員Eメールアドレス	t-mae@asca-iso.jp		
担当教員研究室	非常勤講師控え室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業開始前10分間		
授業の概要及び位置づけ	英語の構成法を学ぶこと、語彙を増やすこと、英語らしい読み方が出来ることがねらいである。この三点をマスターさせることにより、今後の英語学習につなげたい。		
授業到達目標	英語構成を確実に身につける。派生語を理解し、語彙を増やす。 英語らしい発音・イントネーションで英文を読むことができる。		
授業方法（学習指導法）	教科書の、語句と英文構成に関する練習問題（特に、1と2）を中心に学習し、英語構成をマスターし、派生語を中心に語彙力を向上させる。各章の最初の段落をoverlapping, shadowingをしながら、英語らしい読み方を習得する。更に、時間が許す限り、本文を把握する練習をする。毎回、授業開始時に、その日の予習課題から小テストを行う。		
授業内容	回	内容	
	1	教科書販売 / 授業の進め方、教科書の使い方、英文構成法、英文と日本文の違い、小テストについて、等	
	2	小テスト①Ch. 1 / Ch.1: September 11（語彙・英文構成、音読）	
	3	小テスト②Ch. 2 / Ch.2: Beyond "September 11"（語彙、英文構成、音読）	
	4	Review / 内容把握問題	
	5	小テスト③Ch. 3 / Ch.3: The Stone Walk（語彙・英文構成、音読）	
	6	小テスト④Ch.4 / Ch.4: Students' Power in the Stone Walk（語彙・英文構成、音読）	
	7	小テスト⑤Ch.5 / Ch.5: Japan and My Family（語彙・英文構成、音読）	
	8	小テスト⑥Ch.6 / Ch.6: The Japan that I love（語彙・英文構成、音読）	
	9	Review / 内容把握問題	
10	小テスト⑦Ch.7 / Ch.7: Paper Sculpture（語彙・英文構成、音読）		

	11	小テスト⑧Ch.8 / Ch.8: The Ture of the Exhibition (語彙・英文構成、音読)
	12	小テスト⑨Ch.11 / Ch.11: Prayer for Peace (語彙・英文構成、音読)
	13	Review / 内容把握問題
	14	小テスト⑩Ch.12 / Ch.12: Japanese Young Volunteers in America (語彙・英文構成、音読)
	15	Review 全体の復習
	16	期末テスト
キーワード	語彙力、英文構成法、音読	
教科書・教材・参考書	「Peace Talk」(開文社出版、前川智子編著、Andrea LeBlanc 外著)	
成績評価の方法・基準等	期末テスト (50%) 小テスト (40%) 課題・授業中の活動 (10%)	
受講要件 (履修条件)	欠席が5回となると失格する。30分以上の遅刻・早退は原則として欠席扱いとする。	
備考 (URL)		
学生へのメッセージ	毎回宿題(教科書の練習問題)を出すので、それを行った上で授業に臨むこと。ほぼ毎週、その日の予習課題から小テストを行う。 教科書のお下がり不可。同じ教科書で受講した再履修者に限っては本人の教科書であれば再使用も可能だが、新教科書で新たに学習することを奨励する。	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育(夜間主)**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	水7
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590011050	科目番号	05900110
授業科目名	●総合英語Ⅱ		
編集担当教員	山崎 有介		
授業担当教員名(科目責任者)	山崎 有介		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山崎 有介		
科目分類	外国語科目、外国語科目、B科目群 外国語科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[経] 新館101講義室		
対象学生(クラス等)	(経済学部 - 夜間主)		
担当教員Eメールアドレス	pro-1223@i-next.ne.jp		
担当教員研究室	非常勤講師室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業終了後		
授業の概要及び位置づけ	世界経済の低迷に加え、世界中で未曾有の大規模の自然災害が頻繁し、先行き不透明になっている。そんな渦中にありながら、種々の形で希望の光を見出そうと奮闘している人々がいる。このようなエッセイを通じて、英文による内容把握力・語彙力・文法力・作文力を育みたい。		
授業到達目標	無理なく通常の英文が読め、聴覚力を養うことで発音の向上を目指し、英語による表現力を豊かにしたい。 TOEICや英検などの資格試験のスキルアップにも役立てたい。		
授業方法(学習指導法)	語彙の確認、リスニングによる音声把握、音読による発音練習、英文の読解力と表現力を養う。		
	毎回一つずつChapterを進む。Reading → Exercises : I Reading Comprehension → II Sentence Comprehension → III Sentence World Order Exercise → IV Listening → V Conversation → VI Further Activity の流れで行う。		
	回	内容	
	1	Orientation & Introduction	
	2	Unit 1: Walt Disney World Sentence Comprehension>>>>>Verbs	
	3	Unit 2: The Rapid Development of the Coca-Cola Company Sentence Comprehension>>>>>Collocation	
	4	Unit 3: New York's Wall Street Sentence Comprehension>>>>>Nouns	
	5	Unit 4: Ingenuity Sentence Comprehension>>>>>Adjectives	
		Unit 5: Adjusting to the Changing Times	

授業内容	6	Sentence Comprehension>>>>Adverbs	
	7	Unit 6: Positive Thinking Sentence Comprehension>>>>Idioms	
	8	前半のまとめ (筆記試験を含む)	
	9	Unit 7: Luck is an Accidental Product? Sentence Comprehension>>>>Adjectives	
	10	Unit 8: Success Stories in the Business World Sentence Comprehension>>>>Verbs	
	11	Unit 9: Original Art Works Sentence Comprehension>>>>Nouns	
	12	Unit 10: What Provides Children with Sentence Comprehension>>>>Adverbs/Adverbial phrases	
	13	Unit 11: Jewish Education Sentence Comprehension>>>>Idioms	
	14	Unit 12: The Focus of History Education Sentence Comprehension>>>>Adjectives	
	15	後半のまとめ(1)	
	16	後半のまとめ(2)(定期試験を含む)	
	キーワード	Listening/Speaking/Reading/Writing/Vocabulary	
	教科書・教材・参考書	The Secret of Success (Asahi Press)	
成績評価の方法・基準等	中間試験30%、定期試験30%、小テスト(単語テストを含む)20%、授業への姿勢20%		
受講要件 (履修条件)			
備考 (URL)			
学生へのメッセージ	時間をきちんと決めて、予習・復習を必ずしましょう。		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育(夜間主)**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木7
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20140590013050	科目番号	05900130
授業科目名	●総合英語Ⅲ		
編集担当教員	山崎 有介		
授業担当教員名(科目責任者)	山崎 有介		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山崎 有介		
科目分類	外国語科目、外国語科目、B科目群 外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[経] 新館101 講義室		
対象学生(クラス等)	(経済学部 夜間主)		
担当教員Eメールアドレス	pro-1223@i-next.ne.jp		
担当教員研究室	非常勤講師室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業終了後		
授業の概要及び位置づけ	バラク・オバマ(44代大統領)をはじめスタン・リー(コミック原作者)、アンジェリーナ・ジョリー(女優)、レディ・ガガといった現在様々なシーンで活躍する知的刺激に富んだアメリカの有名人が、平易な英文の記事で書かれている。英文を通じてアメリカの創造性の源の一端に触れることで、4技能(Reading, Listening, Speaking, Writing)にわたる現代英語の運用能力を身につけてほしい。		
授業到達目標	無理なく通常の英文が読め、聴覚力を養うことで発音の向上を目指し、英語による表現力を豊かにしたい。 TOEICや英検などの資格試験のスキルアップにも役立てたい。		
授業方法(学習指導法)	語彙の確認、リスニングによる音声把握、音読による発音練習、英文の読解力と表現力を養う。		
授業内容	毎回1つずつUnitを進む。解読のための文法・構文ノート → Comprehension Questions → Listening Comprehension Exercise → English Composition の流れで進む。3回に1回の割合で小テスト(単語テストを含む)を行う。		
	回	内容	
	1	Orientation & Introduction	
	2	Unit 1: Barack Obama: America's 44th President	
	3	Unit 2: Stan Lee: Creator of Marvel Comics	
	4	Unit 3: Angelina Jolie: Actress & Humanitarian	
	5	Unit 4: Justin Bieber: International Pop Idol	
	6	Unit 5: Mark Zuckerberk: Founder & CEO of Facebook	
	7	Unit 6: Matt Damon: Outspoken Actor	
8	中間のまとめ(筆記試験を含む)		

	9	Unit 7: Tim Cook: Leader of Apple Computer
	10	Unit 8: Lady Gaga: Flamboyant Pop Singer
	11	Unit 9: Marc Jacobs: Bi-Continental Fashion Designer
	12	Unit 10: Michael Bloomberg: New York Mayor & Billionaire
	13	Unit 11: Doris Kearns Goodwin: Popular Historian
	14	Unit 12: George Lucas: Filmmaker of Star Wars
	15	後半のまとめ(1)
	16	後半のまとめ(2) (定期試験を含む)
キーワード	Listening/Speaking/Reading/Writing/Vocabulary	
教科書・教材・参考書	Cultural Leaders in America Today 2 (Asahi Press)	
成績評価の方法・基準等	中間試験30%、定期試験30%、小テスト(単語テストを含む)20%、授業への姿勢20%(質問、意見など)	
受講要件 (履修条件)		
備考 (URL)		
学生へのメッセージ	英語運用能力を確実にするために、予習・復習の時間をきちんと設定しましょう。	

